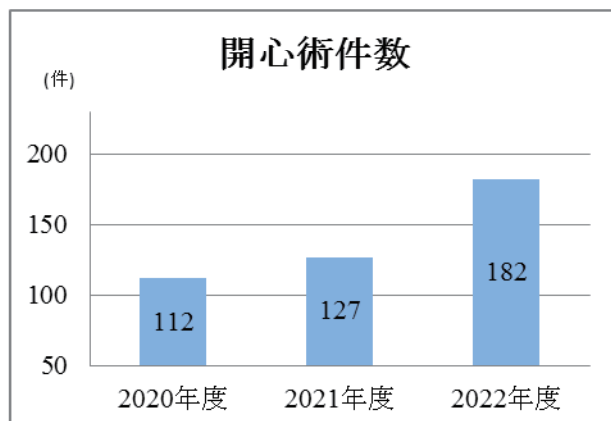
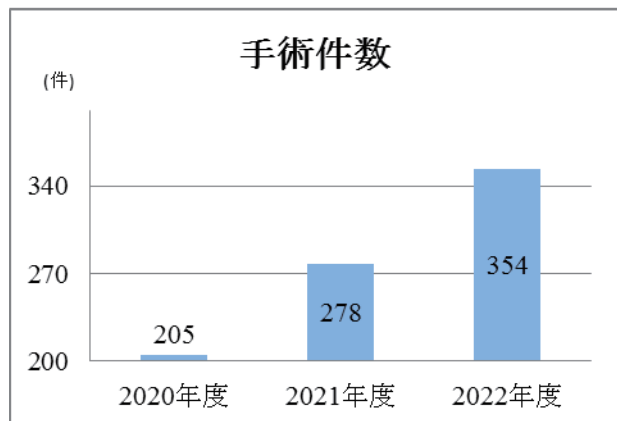
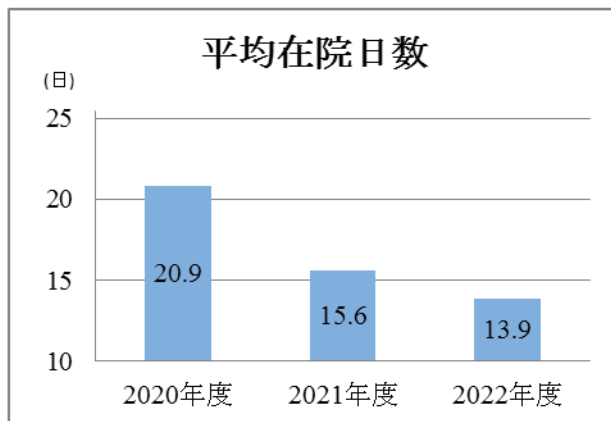
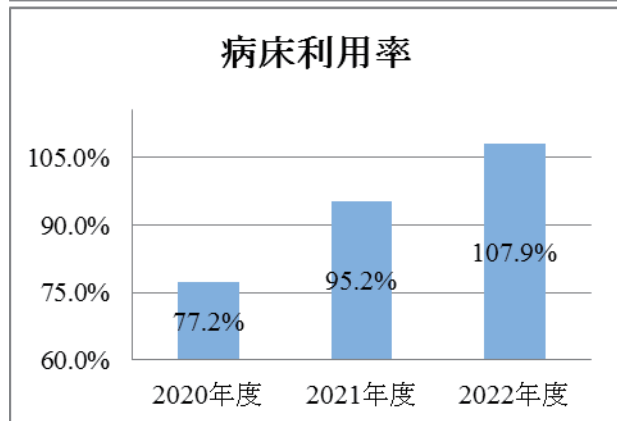
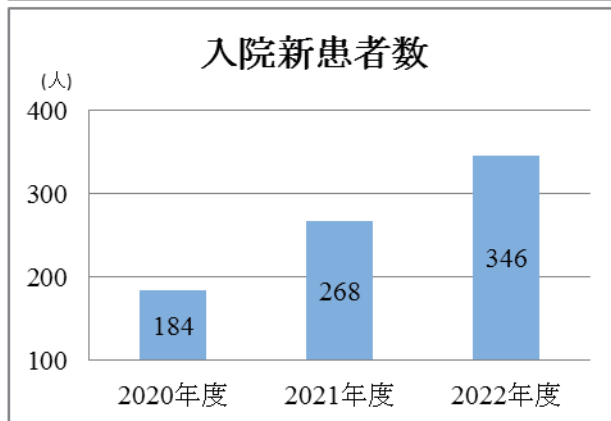
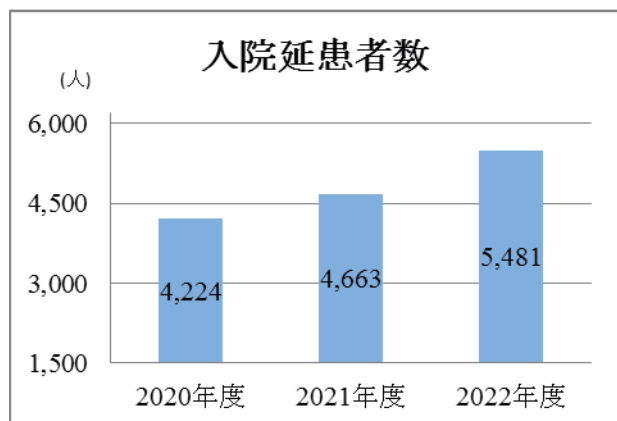
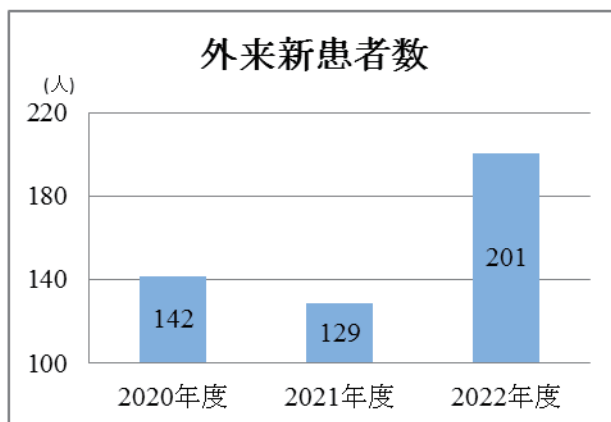
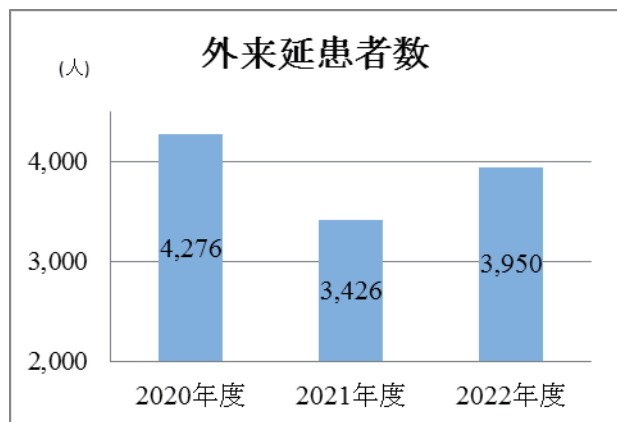


2-14 心臟血管外科

診療実績



診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在5人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域であります。心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

平成2022年度の1年間で心臓胸部大血管手術182例（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantationを含む）、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計354例の手術を実施しました。緊急手術はそのうち67例でした。2022年は循環器内科とともにハートチームとして重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が開始され、9カ月間で38例の治療を実施いたしました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が2022年より循環器内科とともにハートチームとして開始いたしました。ハートチームとしては現在2名のTAVI指導医、2名のTAVI実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者やfrail症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術（MICS ; Minimally Invasive Cardiac Surgery）を積極的に行っております。順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。内視鏡下手術も順調に症例数を重ねており2023年には静岡病院でロボット心臓手術が実施できるように準備を行っております。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する内視鏡手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様やfrail症例に対して行われる血管内治療であります。従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術（CABG）ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択によるCABGは術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのため遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。こうした疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っております。

2023年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVIやロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとするを目標

といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の3分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

① 原著 (英文)

1. Matsui Y, Asai T, Oishi A, Kamikawa Y, Amano A, Tabata M. Minimally Invasive Extraction of a Catheter From the Heart Without Thoracotomy. *Ann Thorac Surg*. 2022 Dec;114(6):e451-e453. doi: 10.1016/j.athoracsur.2022.02.019. Epub 2022 Feb 26.
2. Oishi A, Asai T, Kajimoto K, Kamikawa Y, Amano A; Mycotic Aortic Arch Aneurysm Caused by *Clostridium perfringens*; *Cureus*. 2022 Jan11;14(1):e21135. doi: 10.7759/cureus.21135. eCollection 2022 Jan.
3. Oishi A, Matsushita S, Dohi S, Yamamoto T, Kajimoto K, Amano A: Endovascular repair for iliac artery aneurysms: Surgery in Practice and Science. <https://doi.org/10.1016/j.sipas.2022.100141>

② 学会発表 (国内)

1. 梶本完, 大石淳実, 上川祐輝, 小田遼馬, 畑博明, 稲葉博隆, 浅井徹, 天野篤: Atrial functional mitral regurgitation に対する弁形成術: 二次腱索切除と前尖人工腱索の成績. 第52回日本心臓血管外科学会定期学術集会, シンポジウム, 横浜, 2022
2. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 畑博明, 梶本完: 救命可能であった腹部大動脈瘤破裂の2症例: 第14回静岡県東部心臓外科循環器内科連携の会, 静岡, 2022
3. 松井友紀, 浅井 徹, 遠藤大介, 李 知榮, 町田洋一郎, 西田浩介, 佐藤友一郎, 松下 訓, 畑 博明, 天野 篤: 亜急性心筋梗塞による後方型心室中隔穿孔に対して拡大サンドイッチ法心室中隔穿孔閉鎖術を施行した一例. 第188回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会
4. 松井友紀, 浅井 徹, 遠藤大介, 李 智榮, 町田洋一郎, 西田浩介, 佐藤友一郎, 松下 訓, 森田照正, 畑 博明, 天野 篤: 心室中部閉塞性肥大型心筋症に対して経大動脈弁、経心尖部心筋切除を施行した一例. 第263回日本循環器学会関東甲信越地方会
5. 梶本完, 大石淳実, 上川祐輝, 小田遼馬, 畑博明. Results of mitral valve plasty using secondary chordal cutting and anterior leaflet artificial chordae for atrial functional regurgitation, 第46回静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス, 静岡, 2022
6. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 中村優, 設樂準, 和田英樹, 塩澤知之, 荻田学, 畑博明, 諏訪哲, 梶本完: 亜急性心筋梗塞、心不全入院加療中に新規出現した左室内巨大血栓症にに対して内視鏡下血栓除去術を施行した一例: 第159回日本循環器学会東海地方会, 三重, 2022
7. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 畑博明, 梶本完: 亜急性心筋梗塞、心不全入院加療中に新規出現した左室内巨大血栓症にに対して内視鏡下血栓除去術を施行した一例: 第66回静岡心臓血管外科医会, 静岡, 2022

8. 小田遼馬、梶本完、上川祐輝、畑博明、大石淳実：解離性腹部大動脈瘤を有する大動脈弁狭窄症患者に対して EVAR と RAT-AVR を併施した一例：Complex Cardiovascular Therapeutics 2022, ポスター, 神戸, 2022
9. 小田遼馬、梶本完、上川祐輝、畑博明、大石淳実：浮遊性弓部大動脈血栓に対し外科的治療を施行した一例：第 190 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2022

③ 学会発表 (海外)

1. Ryoma Oda, Kan Kajimoto, Taira Yamamoto, Hiroaki Hata, Atsumi Oishi, Yuki Kamikawa, Daisuke Endo, Akie Shimada, Kosuke Nishida, Lee Jiyoung, Yoichiro Machida, Yuichiro Sato, Shizuyuki Dohi, Tohru Asai, Minoru Tabata, Atsushi Amano : A study comparing the long-term propensity of a second arterial graft–internal thoracic artery versus radial artery–in coronary artery bypass surgery. Western Thoracic Surgical Association 48th annual meeting, Koloa, Hawaii, USA, 2022